

星野学園小学校新聞

星野学園小学校
埼玉県川越市上寺山 216-1
〒350-0826 Tel.049(227)5588

星野学園小学校
Web

www.hoshinogakuen.ed.jp/hes/

クリスマス会

〜二年に一度のお披露目〜

星野学園小学校では、一年の終わりを大きな行事で締め括る。それはクリスマス会だ。偶数年度は学年のみの発表会を行い、奇数年度はハーモニホールに保護者の方を招いて全校規模で行う。この日のために各学年、一生懸命に準備・練習した。観る側・披露する側ともに、クリスマスを楽しみることができた。



2013年最後の行事となったクリスマス会。ネイティブ教員によるビンゴは大盛り上がりだった。

十二月十四日、ハーモニホールの舞台には華やかで大きなクリスマスツリーが飾られていた。今年度は、多くの保護者の方々が観覧する中、全学年でクリスマス会を楽しんだ。オープニングは音楽クラブによるハンドベルの演奏でスタート。「きよしこの夜」をキラキラとした素敵な音色で奏でてくれた。バックのシンクラブが作成したクリスマス会のパワーポイントが観客の目を惹いた。第一部は各学年のステージ発表である。一年生は、金色と銀色のリボンを手につけ、「あわてんぼうのサンタクロース」を歌いながら、「可愛らしいダンスを見せてくれた。二年生は、ハンドベル、鍵盤ハーモニカ、箏、タンバリン、鈴等様々な楽器を使い、「ジングル



クリスマスソングを揃えるビンゴ。喜びを表現。

ベル」を元氣よく演奏した。三年生は、ミュージカル「やしの木のココ」を発表。やしの木のココが、旅の途中にたくさんの出会いをしながら、クリスマスを探しに行く。様々な飾りを身につけた子どもたちが全身で波や砂漠を楽しそうに表現している姿が印象的だった。四年生は、子ども達が考えたお話「クリスマス風おもちのチャチャチャ」を発表。子どもたちが考え、歌い、楽器を演奏し、全員で作上げたミュージカルとなった。五年生は、古事記の「天の岩戸」を発表。難しいイメー



厳かな雰囲気の中、ハンドベルが響き渡り、クリスマス会は開演した。

ジの神話を、一年生も楽しめるようなパロディに仕上げた。また、素晴らしい演技力とパフォーマンスで会場を沸かせてくれた。各学年の趣向を凝らした発表の後は、子どもたちお待ちかねのパットン先生によるクリスマスビンゴが行われた。ビンゴになると子どもたちは「ビンゴ！」と大きな声で手を挙げていた。最後は、保護者席の方を向いて全校児童で「We Wish You a Merry Christmas」を合唱。子どもたちの美しい歌声がホールに響き渡る中、楽しいクリスマス会が幕を閉じた。(町田)

冬の学校

二月六日(木)、四・五・六年生が、二泊三日の冬の学校に出発した。当日、苗場は気温が低く、決して恵まれた天候ではなかった。しかし、子どもたちは、悪天候にもめげず、何度も経験してきたスキー実習に、各々が思い思いの目標を胸に臨んだ。二日目の目玉イベントでもあるナイタースキーでは、九十パーセント以上の参加率となり、子どもたちの冬の学校を存分に楽しむ気持ち、スキー上達への高い意欲が感じられた。七日(金)には、一・二・三年生が、高学年が待つ一泊二日の冬の学校に出発した。初めて参加する一年生は、他学年以上に事前学習に時間をかけて臨み、ほとんどの一年生が初めてのスキー、未経験の雪山という中、スキー実習に挑戦した。そ

星野学園小学校のwebページでは、子どもたちの毎日の活動の様子を随時更新しています。学校説明会やオープンスクールの情報も掲載しています。

<http://www.hoshinogakuen.ed.jp/hes/>

最終日の八日(土)、帰着が心配される中、苗場と同じような雪景色が広がる川越に無事に到着した。大雪の中、全ての保護者の方にお迎えに来ていただき、子どもたちは笑顔で冬の学校を終えることができた。(佐藤優)



2日間、お世話になったインストラクターさんとの記念の1枚。スキースタイルも様になっています。



書初め カルタ 百人一首

一月九日(木)、十チーム戦で、取った札日(金)にお正月会が行われた。お正月会とは、カルタや百人一首、書初めを通じてお正月を楽しむ行事である。

九日のカルタ会では、国語の授業で学んだルールをしっかりと守って、カルタ取りを楽しむ一年生の姿が見られた。カルタ会は、一、二年生は小室棟隣の生徒会館の和室で、三、六年生は二階一階アリーナで行われ、普段とは違う雰囲気緊張感も高まったようであった。

お手つきをしないように、手を膝の上に揃えている姿が可愛らしい。二年生はカルタを取るスピードも上がり、正座で真剣に札を探す様子に成長を感じられた。同日、三年生と四年生、五年生と六年生は、合同で百人一首大会を楽しんだ。試合は一班四人の



白熱の札取り。全神経を研ぎ澄まし、その1枚、その1手に集中。

白熱の札取り。全神経を研ぎ澄まし、その1枚、その1手に集中。成長が感じられる。三年生が川越北消防署へ社会科見学に出

一月十六日(木)に、

社会科見学

(佐々木)

その後は消防車両



全員が書いた。冬の休み中から各自が練習に取り組み、この日はその成果が出せたものであった。

その後は消防車両



全員が書いた。冬の休み中から各自が練習に取り組み、この日はその成果が出せたものであった。



一筆一筆に気持ちを込め、心穏やかに、半紙に筆を落とす。

その後は消防車両



全員が書いた。冬の休み中から各自が練習に取り組み、この日はその成果が出せたものであった。

その後は消防車両



全員が書いた。冬の休み中から各自が練習に取り組み、この日はその成果が出せたものであった。

プラネタリウム

「わあー。」子どもたちは思わず感嘆の声をもらした。十二月十一日(水)、さいたま市青少年宇宙科学館にて、四年生は校外学習を行った。四年生の理科では月や星の動きについて学習した。その知識や理解をより深めるための学習である。プラネタリウム全体に広がる美しい星空に



星空を眺めるその眼差しは、感動・感激に満ちている。

冬の自然観察

一月二十四日(金)、厳しい寒さが予想されたが、天候にも恵まれ、暖かい気候の中、一年生が「冬の自然観察」と題し、白鳥を観察しに出掛けた。

鳥に出逢うことができなかったが、今年を見学し、消防隊員の方々の訓練の様子を生で見ることができた。質問にも快く回答していただき、子どもたちの防災に対する理解と意識が高まりました。皆様、ありがとうございました。(本松)



貴重な自然体験。時を忘れて観察していた。

は、多くの白鳥が、一年生を迎えてくれた。事前学習で、自然の厳しさを学んでいた一年生は、川島町にある白鳥飛来地で貴重な体験をすることができた。静かに佇む白鳥、澄み渡る大空を優雅に舞う白鳥の姿に感動を覚え、一年生のみんなは、ひたむきにその一瞬一瞬をプリントに書き留めていた。

一羽、二羽と、次々に現れるその様子は、まるで一年生に逢いに来てくれたかのようであった。一年生のみんなは、耳や目に焼き付けたその感激を、事後学習で一人ひとりがオリジナルの白鳥を折り、思い思いに表現したのであった。

(佐藤優)

漢検は、五・六年生を対象に、五級以上の取得を目標に掲げている。今年度も、より一入に挑戦しようとして、自分の目標に向けて努力してきた。

検定当日、鉛筆の走る音が響き渡る教室には緊張感が張り詰め、全員が挑戦する様子は圧巻であったが、検定が終わった後の子どもたちの表情は、一つの目標に向けてやり遂げた充実感に満ちていた。

(佐藤優)

漢検・英検

英語教育と国語教育にも力を入れていく一環として、本校は、英検と漢検を準備している。今年度は、一月二十五日(土)に英検、三十一日(金)に漢検を実施した。

英検は、六年生を対象に、小学校卒業時までに五級取得が目標だが、級の取得を目指すだけでなく、これまでに培ってきた英語力を試す良い機会でもある。